

## WG C (ダム跡地利用)ワーキンググループ第3回会議・議事録

日 時 平成17年1月18日(火)13:00~15:00  
場 所 茅野市・湖東地区センター  
出席者 11名

配布資料 ダム跡地の「その利用についての想い・構想」(追加分4件)

会議概要 冒頭、グループ長よりLCVの取材について説明、出席者の了解を得た。  
12月に回収した「跡地利用の提言」(18件)についてまとめの資料を  
参考にひとつの集約方向を見出すことを中心に論議した。

決めたこと **ダム跡地利用についての方向は次の通りとする。**

**「ダム跡地を核とする八ヶ岳山麓を中心とし「緑のダム」の実現を基本  
とした構想とする」**

**いまの跡地を出来る限り早い機会に下草刈りなど整備する。**

**講演会(又はシンポジウム)を開催する。**

**森林に関する専門家の講演を中心に、地元・地域住民、開発業者などにも呼びかけて開催する。**

主な意見

建物を作ることは反対だが管理棟は必要だと思う。

跡地Gは他のWGより早くまとまる。一次段階を我々でまとめ、二次の  
段階は地元を含めた検討が必要。

ここでの大筋の方向は一致している。「森林を自然のまま残す。治水を  
緑のダムで」このことを大切にもう一步議論を深める場を作る。

緑のダムにすることでなく、教育機関として都会の生徒が来て間伐をし  
て腐葉土や水の出来ること、河、諏訪湖、天竜川など、原点の森と水を  
大切にするを学べるようにする。全部森にしてしまうとそういうも  
のが出来ない

跡地の40haだけではこの膨大な計画は無理、「森林特区」のようにま  
とめて、第1次提案する。(前回運営委員会で決定している)県に理解  
してもらおうようにもっと大まかな提案を第1次構想としてはどうか。

跡地周辺は長谷工の開発予定地なのでこの点をクリアーにすることが  
先決ではないか。具体的な開発内容はわからないが長谷工も無視できな  
い。

大手開発業者の開発計画が県に再提出されているが、この計画の有無に  
かかわらず我々は考えるべきだと思う。

ダム計画にあった4.2%の調整池は事実上解消した。開発業者の再提  
出の計画では御射が池を中心にリゾートマンション、ホテル、美術館、  
などがある。現アセスには御射が池の景観上重大な欠陥があるにも拘わ  
らず、再び御射が池を中心とした計画が出されている。

いま、農業と山が荒廃している。いままでの延長線でなく財産区や農家の人びとと一緒に考え「新たな財産区のあり方」まで言及する姿勢が必要です。山をこれ以上荒らさない。クマ、シカ、猿など動物と人間の共生を考えるべきだ（鹿・熊「オレ達どこへ行けばいいのだ」）

提案をまとめるのはよいが、国、県、市提出先で内容が異なるのではないか。

正式にダム建設が中止と確認されないと前に進まないのではないか。ダムを核にする形が望ましい。市民の森候補のひとつとして八ヶ岳山麓の緑のダムとして燎原の火が広がるようにしたい。私達の意見がすべてでない。

いまは制約なしで理想郷としての緑のダムを考えるべきだ。

当面、跡地は下草刈りを行い、勉強会なども計画したらよい。大事なことはどこにも負けない森にすること。付け焼刃の森でなく、長い期間をかけ、現場を見て作り上げる。

京大研究林があるように、信州大学の研究林にしてもよいのではないか、これを機会に大学教授や学術専門家（地元にもいる）を招き講演会やシンポジウムを行ってはどうか。地元、開発業者、行政など、私達も交え、多くの意見を出し合う場所として開催すればよい。

「緑のダム」とは何か、掘り下げる必要がある。

ボランティアによる下草刈りなどをやって跡地のPRをしては。

跡地の道路際10mくらいにコスモスの種でもまいて関心を持ってもらう。

現在の跡地にはシカの住みかはない。

#### WG リーダーの意見

「河川改修計画」が3月末に決まる予定。この決定によって跡地利用の方向も見えてくる。それを受けて具体計画の検討を進めてはどうか。具体案をまとめるにも地元の賛同が必要、一部でも反対があれば国も、県も動きにくい。地域住民とのコンセンサスを大事にしていきたい。

---

#### 第4回会議を次の日程で行います。

日時 2月18日(金) 13時～15時（2月10日を変更しました）

会場 茅野市役所(4階) 401会議室（TEL 0266 72 - 2101）

議題 跡地及び周辺開発の情報などについて。

講演会（シンポジウム）計画の確認

跡地整備(下草刈りなど)の具体的な進め方。

その他